

第 35 回柵屋グループ杯少年野球大会規約

◎適用規則

1. 大会はトーナメント方式で決する。
2. 各試合は 6 回戦または 1 時間 30 分とする。但し、決勝戦に限りコールドゲームなし
6 回戦または 2 時間とする。
これは時間を優先し制限時間を超えた場合、新しいイニングに入らない。
ただし勝っているチームが最終回となるイニングの表の攻撃中に制限時間が経過した場合、裏の攻撃終了まで試合を続行する。勝っているチームが後攻の場合、表の攻撃終了後に試合を終了させる。
- 試合時間は、球審による試合開始のプレイコールを始まりとし、次イニングに入る基準は当該イニングの第 3 アウトの事実が生じた時に制限時間内の場合とする。
3. 6 回終了時または前号の時間経過後の後攻チーム攻撃終了時に同点の場合は、タイブレーク方式に入る。
4. タイブレーク方式は、一死満塁で前回最終打者の次打者からの攻撃とする。走者は、前回最終打撃完了者を一塁走者として、二塁、三塁の走者は順次前の打者とする。タイブレーク方式は 2 イニングまで継続とし、なお同点の場合は監督、コーチの抽選により決する。
5. 得点差によるコールドゲームは、4 回成立 10 点差、5 回成立 7 点差とする。ただし、準決勝については 5 回成立 7 点差とする。
6. 雨天および日没によるコールドゲームは 4 回終了時で試合成立とし、その決定は大会運営本部が行う。
7. 出場チームは試合開始予定 30 分前までに監督またはコーチが大会運営本部にて出場申告を行い、メンバー表 3 部を提出して登録選手名簿との照合を受けること。選手の追加登録は出場申告するまでは可能とする。
8. 各チームの主将は、試合開始時間の概ね 15 分前に審判員立会いのもとでジャンケンにより攻守を決定する。
9. ベンチは、組み合わせの小さいチームを 1 塁側とする。
10. ベンチ内に入ることのできる人員は、ユニフォームを着用した選手 25 人と監督、コーチ 2 名、及び自チームの帽子を着用したチーム責任者、スコアラー各 1 名とする。
11. タイム制限に関して、監督が守備側および攻撃側の作戦のため指示を与える回数は 1 試合(6 イニング)につき 3 回までとする。同一イニングにグラウンドに出て 2 度目の指示を与える場合、投手交代になる。ただし、その時はタイムの回数に数えない。
特別延長時は、それ以前の回数に関係なく守備側、攻撃側共に 2 イニングで 1 回とする。
野手については、2 人以上の野手が投手のもとへ行ける回数を 3 回までとする。
特別延長時は、それ以前の回数に関係なく 1 イニングで 1 回とする。
12. 不正投球は、明らかな場合は直ちにボークとし、紛らわしい行為について 1 度目は注意、指導

を行い、同試合に同じ行為を繰り返した場合はボークとする。

13.変化球は一切禁止する。ただし、1回目は注意を行い、以降明らかに変化球と見なされた場合はすべてボールと判定する。

14.投手の投球数制限については次の通りとする。

(1)一人一日、5、6年生は70球以内、4年生以下は60球以内(以下カッコ内)とする。

(2)ダブルハッターの場合も、一投手一日70球(60球)以内とする。

(3)打席の途中で制限数に達した場合は、当該打者の打席終了までは投球を認める。

(4)投球がボークとなった場合は、投球数にカウントする。

(5)タイブレークになった場合は、制限数以内であれば引き続き投球できる。

15.投手による準備投球は、初回7球、イニング間3球、投手交代時は5球とする。

16.申告敬遠を認める。

17.審判員の判定に対する抗議は認めない。ただし、ルールの適用についての確認は監督からのみ認める。また、判定に対する抗議は認めないことについては、チーム全員に徹底して指導しておくこと。

18.用具、装具等は、(公財)全日本軟式野球連盟規程細則第12条に定められたもの以外は使用できない。

19.それぞれのグラウンドによるルールは、大会運営本部が決定する。

20.この適用規則に定めのない事項は、本年度公認野球規則及び全日本軟式野球連盟競技者必携に準ずることとする。

21.その他重要事項

- ・球場内外問わずマナーには留意し、試合中の言動には特に慎むこと。
- ・相手チームや審判員に対する聞き苦しい野次は禁止とし、特に選手個人に対する野次は厳禁とする。応援者の悪質な行為や野次もチームとしての責任を負うものとする。
- ・鳴り物入りの応援は禁止とし、ベンチ内においても同様とする。ただし、メガホンは監督が選手に指示するときのみ1つ使用を認める。
- ・ネクストバッタースサークル内の次打者は、危険防止のため、低い姿勢で待機すること。
- ・スポーツマンシップにのっとり正々堂々と全力を尽くして競技を行うこと。
大会運営本部の指示に従わないときには、退場していただく場合がある。
- ・当グラウンド及び福生市営球場は全面禁煙になります。ご来場いただく皆様のご協力をお願い致します。

◎案内、依頼等

1. 投球数をカウントする記録員を書くチーム1名選出願います。
2. グラウンド作りやグラウンド整備、ボールボーイ、審判員へのお茶出しは福生シニアで行います。

3. 3回終了にはグラウンド整備を行います。その際に審判員にお茶出しを行います。
4. 試合球は、福生シニアで用意します。
5. 試合会場への自動車の乗り入れは出来るだけ乗り合いでお願いいたします。グラウンドによっては台数制限をかける場合もあります。(原則として1チーム4台以下)
6. 試合会場には、同じ会場で試合が開催されている等の事情も含め、試合前の準備運動が可能なスペースがない場合があります。同じ会場で試合が開催されている場合、投球練習のバッテリーのみブルペン等で練習が可能です。
7. 大会運営上、試合日程は1回戦を11月中、2回戦・3回戦を12月中に消化することを原則とします。試合日程の調整につきましてはできる限り各チーム事情を考慮しますが、福生シニア担当者と連絡を密にし、日程調整にご協力いただきますようお願いいたします。
8. 試合開始時間は、第一試合/9:00、第二試合/10:45、第三試合/12:30、第四試合/14:15 となりますが、場合により変更する可能性もあります。

◎審判員

1. 1・2回戦は各チーム2名を派遣、担当し、以下のローテーションとします。
 - (ア) 試合会場1日4試合の場合：試合開始時間の午前と午後で分け、前後審判とします。
 - (イ) 試合会場1日3試合の場合：試合開始時間の午前と午後で分け、それぞれの前後審判と、午前か午後にて1試合のみ行う方の試合を当該チーム2名ずつの出し合いとします。
 - (ウ) 試合会場1日2試合の場合：前後審判とします。
 - (エ) 試合会場1日1試合の場合：当該チームの出し合いとします。
2. 3回戦・準々決勝は主審および二塁審判は福生シニアが担当し、当該チームが一塁および三塁を各チーム1名が担当します。
3. 準決勝以降、審判は福生シニアが担当します。
4. 主審および二塁審判は、原則として組合せ番号の大きいチーム(3塁側ベンチ)が担当し、相手チーム(1塁側ベンチ)が一、三塁審を担当します。ただし、チーム事情により主審を担当できない等の場合は、両チームの協議により変更することは差し支えありません。
5. 上記を原則としますが変更する場合があります。その際前以って、試合会場、開始時間、審判配置等を福生シニアから確認の連絡をしますので、その指示に従って下さい。

◎表彰

1. チームを表彰するほか、個人賞として最優秀選手賞を優勝チームから、優秀選手賞を準優勝チームから、敢闘賞を3位チームからそれぞれ1名表彰します。なお、個人賞の選手の選定は各チームに一任します。
2. 1試合につき、敗戦チームから敢闘賞1名を選出します。選定は該当チームに一任します。
3. ホームラン時には、そのボールを記念ボールとして贈呈します。打球の判定は大会運営本部が決定します。